

第66巻・第1号 平成30年1月1日発行

牧草と園藝

今こそ土づくりと自給飼料増産を頑張ろう!

2018年 1月
〈新年号〉



ごあいさつ



皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より弊社事業につきまして、特段のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、日本の酪農・畜産業界を取り巻く環境は、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）はアメリカ合衆国の離脱により迷走、日欧EPA交渉と厳しさが増しており、今後の展開を注視する必要があると思っております。

このような背景を鑑みますと、国の畜産クラスター事業を中心とした、畜産・酪農への積極的な支援が必要と感じます。また、配合飼料価格は世界の穀物生産状況や為替相場により依然として高めに推移し、酪農畜産生産者の後継者不足や労働力不足の問題等の課題を抱えています。近年では後継牛の不足による個体価格の高騰が生乳生産へ影響し始め、構造的な課題が進行していると言わざるを得ません。酪農畜産の生産基盤の脆弱化は、国内産の食の確保並びに食の安心・安全を脅かす事に繋がるばかりでなく、地域コミュニティの存続も危うくしてまいります。国民一人一人がこの事を十分に理解し、国内農業を守る意識を醸成していかなければなりません。

酪農・畜産の経営形態も家族経営から法人経営、及び共同経営など様々ではありますが、海外に依存した穀物飼料の影響を少しでも軽減する方法の一つとして、自給飼料の更なる有効活用

が推進されています。安定した酪農畜産経営を確立させる為にも、自給飼料を有効活用し、資源循環型農業を展開し競争力のある持続可能な経営を推進しなければなりません。また酪農畜産生産者の皆さんと共に、消費者の方々と連携を密にしていく活動を大事にしていかなければならないと改めて思う所です。

弊社は創業者である黒澤西蔵翁が提唱した「健土健民」を理想とし、「技術と誠意で農業奉公」を社是とし、創業以来一貫として資源循環型農業を推進して参りました。持続可能な酪農・畜産経営とは、「土・草・牛」の循環を通じ、自然環境と調和をとりながら円滑に資源を循環させるという事です。弊社はその実現に向けて、皆様方と積極的に課題に挑戦して参ります。弊社が共同出資しています北海道標茶町の農業生産法人「(株)TACSしべちゃ」は生乳生産を始めて2年半が経過し、目標の生乳生産量を達成する事が出来ました。牧場スタッフのご尽力と関係機関のご支援に感謝申し上げます。この実践の成果については今後とも情報発信してまいります。

本年も長年に亘って培ってきた技術やノウハウを活かし、雪印メグミルクグループの一員として、酪農・畜産の生産現場に密着した商品と技術を取り揃え、皆様からのご用命をお待ちしております。

今後とも、皆様のご健勝と益々のご繁栄を心からご祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

健土健民

私たちは、創業者 黒澤西蔵翁の精神
『健土健民』を理想としています。

『健土健民』とは、

健全な土地が健全な食料をもたらし、
健全な食料が健全な人間を形成するという
農業があるべき基本的な姿を表しています。

私たちは、この理想を実現するために、
自然・環境との共生を常に意識して行動します。

平成30年 元旦

雪印種苗株式会社

代表取締役社長 赤石 真人